

「川の標識」の管理と整備に関するガイドライン
【第5版】
(資料編)

令和3年3月改訂版

国土交通省 九州地方整備局

**「川の標識」の管理と整備に関するガイドライン
(資料編)**

目 次

1.基本的な考え方	1
1.1 必要性の確認	1
1.2 維持管理	5
2.標準設計	6
2.1 本体及び取り付け方法	6
2.2 印刷技法	11
2.3 標準仕様	12
2.4 標準設計図集	14
付属資料	31
【付属－1】 標識の設置高さ	32
【付属－2】 レイアウトの基本的考え方	33
【付属－3】 標識の素材と設置期間	34
【付属－4】 ダム放流の注意喚起標識(例)	36
【付属－5】 既存の標識を使用する場合の注意点	36

第 5 版の経緯

河川管理上必要な情報提供や河川利用時における安全・安心に資する注意喚起など目的として、九州地方整備局では、「九州川標プロジェクト」を推進しており、平成 21 年 5 月にガイドラインを作成し、その後、平成 22 年 10 月に第 2 版改訂（記名標識、解説標識追加）、平成 24 年 8 月に第 3 版改訂（標準設計追加等）、平成 31 年 3 月に第 4 版改訂（ピクトグラム追加、外国語表記見直し等）を行い、現在の運用に至っているところである。

現在、ガイドラインに従って、各河川で取り組みが進められているところであるが、運用から 10 年を経過し、川の標識の基本的な考え方や標識の指定など重要事項の周知に課題が見られていることから、「伝わりやすさ」及び「活用しやすさ」を観点にガイドラインの構成を見直すこととした。

川標としての定着化に向け、ガイドラインのうち、特に周知が必要な部分を【本編】に、その他を【資料編】に分冊化し、秩序ある情報提供につながることを狙いとしたものである。

第4版との目次の対比

第4版	第5版	
	本編	資料編
まえがき	●	
川の標識の基本理念	●	
1.基本的な考え方	●	
1.1 適用の範囲	●	
1.2 標識の現状と課題	●	
1.3 必要性の確認		●
1.4 管理台帳の整備	●	
1.5 維持管理		●
2.川の標識と種類	●	
2.1 川の標識の分類と種類	●	
2.2 規制標識(禁止標識、注意喚起標識)、啓発標識	●	
2.3 記名標識(河川名称)	●	
2.4 案内標識(キロポスト)	●	
2.5 解説標識(水位危険度レベル標識)	●	
2.6 解説標識(河川水難事故防止)	●	
2.7 解説標識(水門・樋門及び排水ポンプ場)	●	
2.8 解説標識(ダム警報局)	●	
2.9 解説標識(備蓄場・資材置き場)	●	
2.10 工事説明看板	●	
3.標準設計	●	
3.1 標準設計の対象範囲	●	
3.2 規制標識設置までの流れ	●	
3.3 標準設計の版面サイズ	●	
3.4 レイアウト基準	●	
3.5 本体及び取り付け方法		●
3.6 印刷技法		●
3.7 標準仕様		●
3.8 標準設計図集		●
あとがき	●	
付属資料		
【付属-1】 標識の設置高さ		●
【付属-2】 レイアウトの基本的考え方		●
【付属-3】 標識の素材と設置期間		●
【付属-4】 ダム放流の注意喚起標識(例)		●
【付属-5】 既存の標識を使用する場合の注意点		●
【付属-6】 管理台帳	●	

※第5版で、「解説標識(かわまちづくり)」を新規追加

1. 基本的な考え方

1.1 必要性の確認

標識の点検を実施したうえで、直轄管理区間の河川区域等に設置されている標識のうち、道路標識を除く全ての標識について、必要性や機能性を確認する。

点検結果を踏まえて、市民の安心・安全のために**重要度が高い「禁止標識」及び「注意喚起標識」を優先**して、計画的に改善を図る。マナーアップや啓発を目的とした標識は、効果よりも、むしろ景観を乱しているとの指摘がある。このため“一部の住民から要望されたから設置する”という姿勢から脱却し、**真に必要な標識かどうか、地域の総意であるかなど、現場状況を踏まえ、その必要性を厳格に判断して、設置の要否を決める。**

また、更新時にも、引き続き設置が必要かどうかを検討し、**必要性の低下した標識は存置しない。**

改善にあたっては、必要に応じて地域住民や専門家の意見を聴くこととする。

河川管理者が行う危険回避措置は、標識だけで対応する場合と防護柵等の設置と併せて対応する場合があるので、現地の状況を踏まえて判断する必要がある。

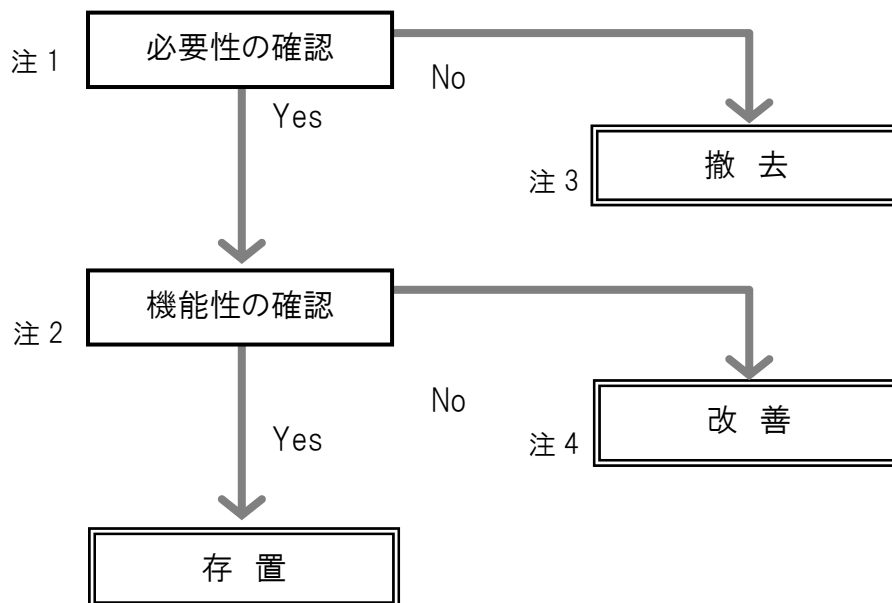


図 1-1 点検改善フロー図

- 注1. 利用者にとって必要な標識かどうかについて、現場条件等を踏まえて判断する。
- 注2. 破損や劣化等の状態、表示内容のわかりやすさ、設置位置などから機能性を判断する。
- 注3. 撤去にあたって、市町村や地域住民の理解が必要な場合は、意見交換等を行い、十分に理解を得て行う。
- 注4. 版面のみを付け替える場合は、既設柱の色等の改良も併せて検討する。

1.1.1 設置前に確認する事項

新設にあたっては、近傍の既存標識の設置状況をチェックし、設置の必要性を十分に吟味する必要がある。

設置の必要性については、下記のチェックリストにてチェックすることとする。

■確認事項

- 近傍周辺に類似する既存の標識はないか？
- 設置することで、規制や注意喚起、啓発の効果が期待できる場所か？
- 標識が、課題の改善に最も効果的な対応策であるか？
- 設置することで、治水面や河川構造物等に支障が生じないか？
- 利用者や車などから、視認しやすい場所であるか？
- 設置について、関係者や地域住民等の理解が得られるか？
- 視点場等を考慮して、眺望の妨げや景観の阻害にならないか？

1.1.2 標識の統合化

近接して複数設置している標識も散見されるため、分かりやすく、かつ秩序ある河川風景を維持する観点から、**極力統合化に努めることとする。**

参考として写真 1-2 に類似した標識の統合化を図った例を示す。



写真 1-1 類似した標識が複数設置してある例



写真 1-2 規制標識を一体に統合化した例(菊池川)

1.1.3 標識の素材と取り付け方

標識の素材の選定にあたっては、耐久性を考慮するものとし、規制標識(禁止、注意喚起)及び啓発標識の表示面については5年程度、本体(支柱含む)については10年程度を標準的な耐用年数とする。都市部などにおいては、スチールとインクジェット印刷(印刷面はコーティング)の組み合わせを標準とするが、田園地帯、観光地や風致地区など、周辺の景観との調和が必要な地域では、木材とインクジェット印刷(印刷面はコーティング)の組み合わせを標準とする。また、河川記名標識など半永久的に設置するものについては、経済性を考慮してさらに長い耐用年数のものとする。

現場条件や周辺景観との調和の観点から、これにより難しい場合には、その他の素材や印刷方法を採用することができるものとし、標識の取り付け方については、見やすさや景観、統一感に配慮し、その場あわせ的にならないように留意する。なお、素材や取り付け方については、現場の事例を蓄積しながら、確立を図っていくこととする。

木製の標識については、防腐処理などを施し耐久性に配慮するとともに、視認性が低下しないように適切に維持する必要がある。

河川敷に多数設置されている啓発を目的とする標識については、効果を維持するための方法として、美化キャンペーン時に地域住民の協力を得て、期間限定で設置するなどの工夫策を検討する。その場合には、布製やビニール製などの簡易的な素材の採用も可能である。



標準的な素材：スチール＋インクジェット



木製標識

図 1-3 素材や取り付け方の具体例

1.2 維持管理

(1) 維持管理

標識については、利用者の安全・安心に資するために定期的に点検(1年に1回程度)や適宜清掃、補修を行うなど適切に維持管理して、常に良好な状態を保つように努める。なお、点検日や、補修内容等については、台帳に記録しておくこと。

(2) 専門家や地域との連携

標識に対して住民の共感が得られるようにすることで、落書き等による機能喪失を防ぐことにもなるため、標識の点検や改善策を立案する場合には可能な限り専門家や地域住民等の参加を図り、維持管理も含めて地域と適切に連携する。

(3) 地域が設置する標識の取り扱い

地域が設置するマナーアップのための標識など、恒久的に設置する必要がないものについては、設置期間を概ね3年程度に限定するものとする。なお、期限が到来したときには、存続すべきかどうかについて必要性も含めて設置者と協議するものとする。

2. 標準設計

2.1 本体及び取り付け方法

設置場所や地域資源の活用などを考慮し、次の3タイプ(Mタイプ、Wタイプ、Pタイプ)から選択する。ただし、設置場所や構造等により変更が必要な場合は、別途、検討することとする。

M (メタル) タイプ及びW (ウッド) タイプについては、基本的に2本支柱とし、コンクリート基礎による設置とする。

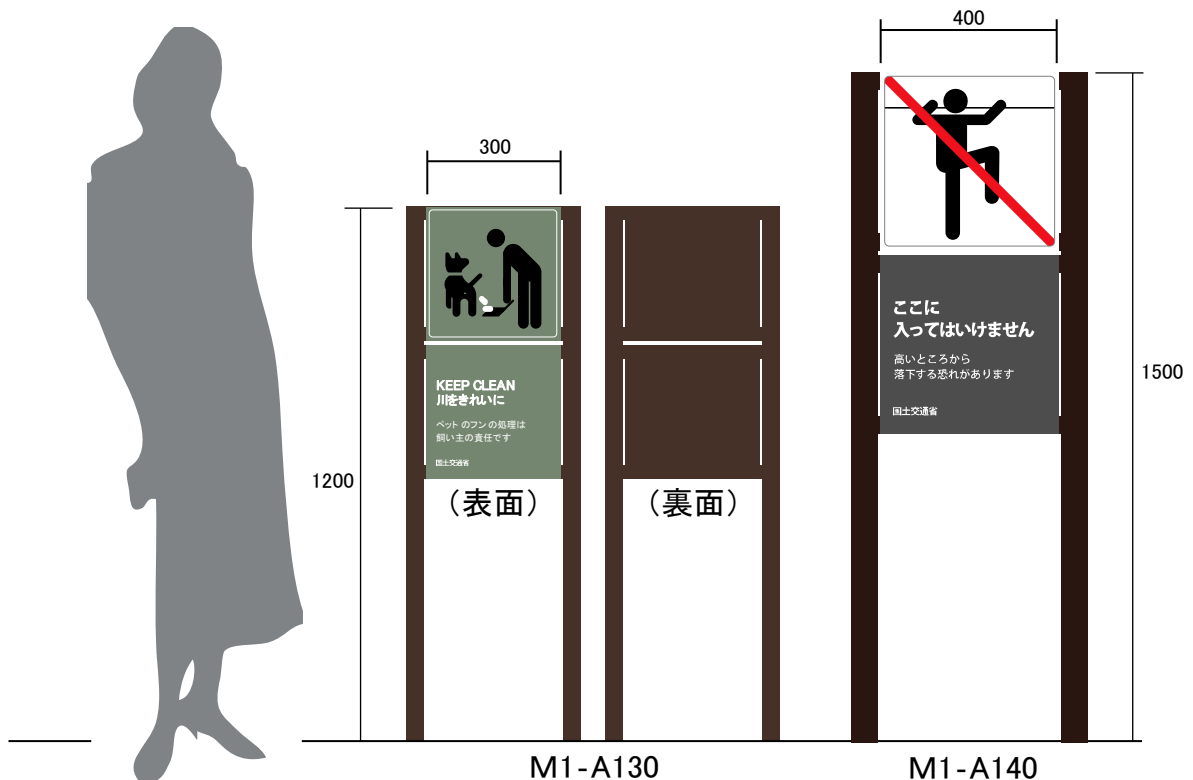
ただし、既存のサインと付け替える場合などは、1本支柱のタイプでも可とする。(P 36 参照)

P (プレート) タイプは、壁面またはフェンス等に直接取り付けるものとする。

Pタイプ (壁面取付けタイプ) 以外の背面については、両面に表示が不要な場合は、支柱と同じ色で塗装することが望ましい。

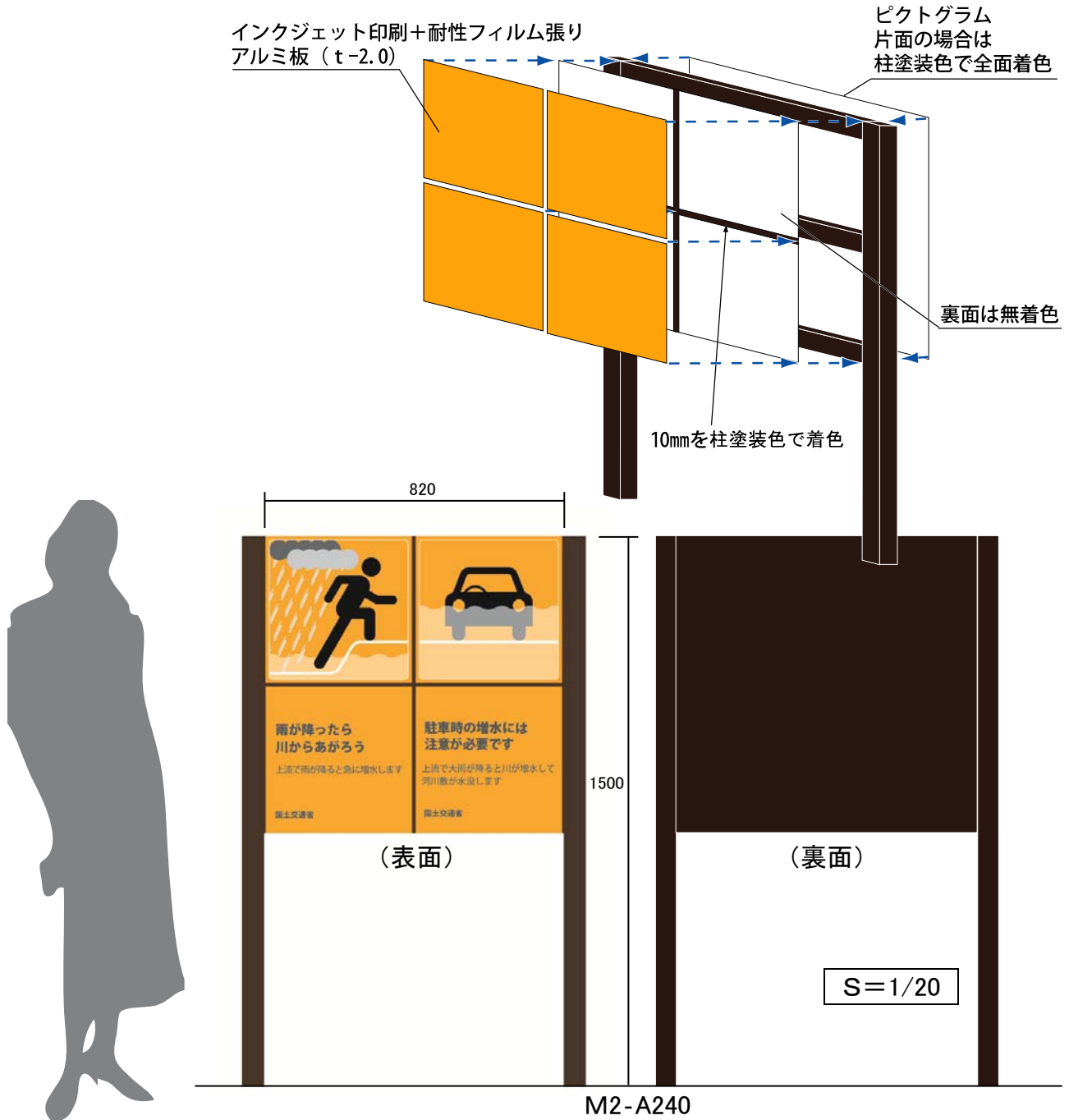
(1) Mタイプ (スチールまたはS U S)

■M1タイプ(A130, A140)



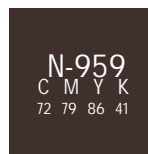
S=1/20

■M2タイプ(A230, A240)

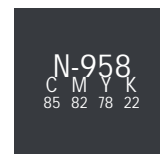


柱塗装色

- ・新設する場合は指定色を塗布。
- ・既設の柱を使用する場合は指定色を塗布することが望ましい。



皂色(くりいろ)

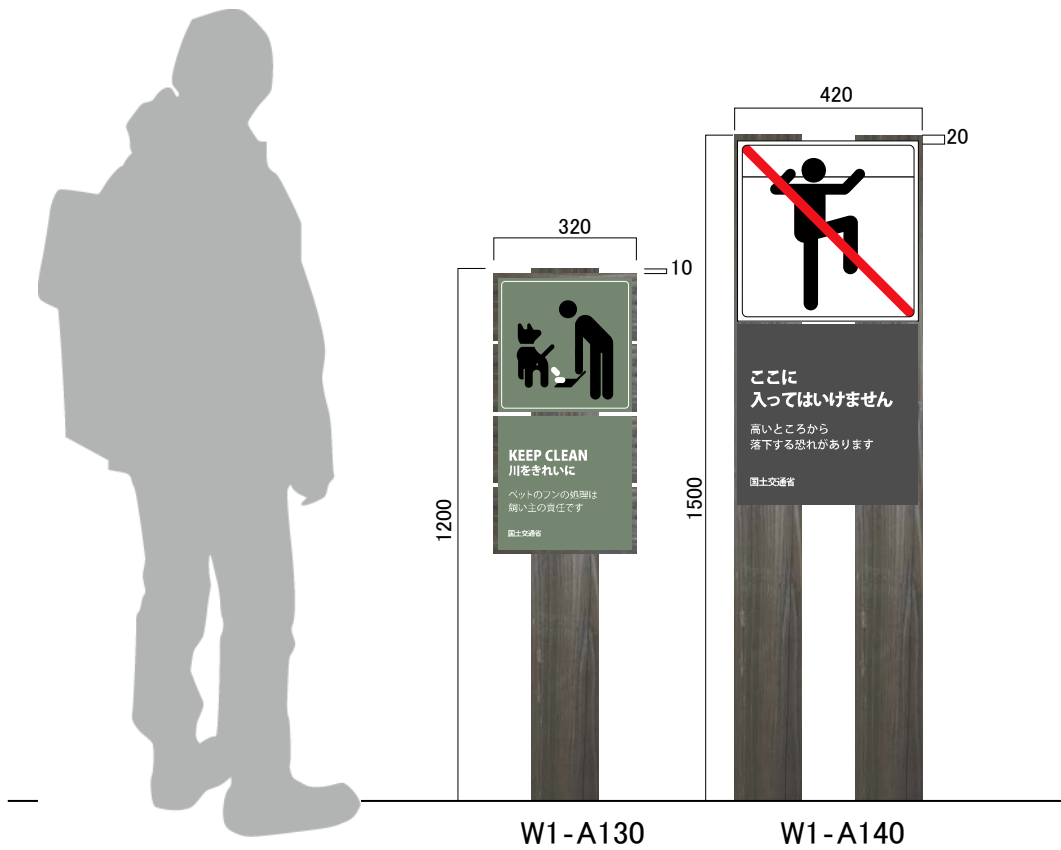


消炭色(けしずみいろ)

※複数枚を並列で設置するケースなど、標準設計で想定されていない場合は、ケーススタディとして河川部と協議する。

(2) Wタイプ (ウッド)

■W1 タイプ(A130, A140)



S=1/20

■W2タイプ(A230, A240)



S=1/20

※複数枚を並列で設置するケースなど、標準設計で想定されていない場合は、ケーススタディとして河川部と協議する。

(3) Pタイプ (プレート)

■P1、P2 タイプ(B130, 140, 230, 240)

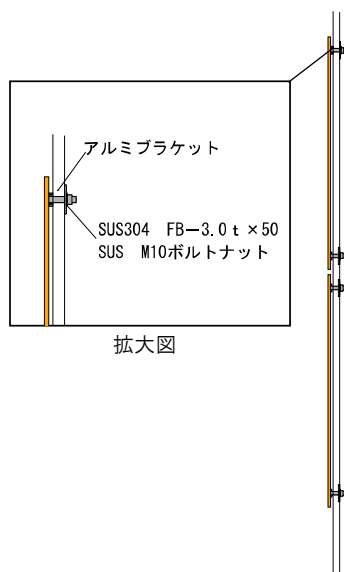


P1-A140



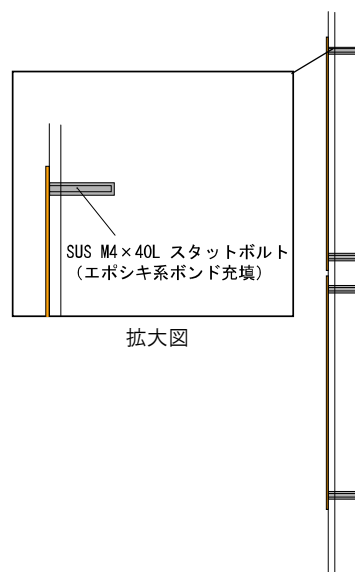
P2-A240

S=1/10



拡大図

金網等に設置する場合



拡大図

壁面に設置する場合

2.2 印刷技法

ピクトグラム及びメッセージ版の印刷技法は、以下に示す **2 通りのいずれかを採用**するものとする。ただし、**耐久性が求められる場合や地域ニーズ等により表現性を高める必要がある場合**などについては、別途、印刷技法を検討することとする。

印刷技法についてはさまざまな手法があり、必要に応じて選択することが重要である。なお、標準設計においては、以下の点を重視した。

- ・比較的安価であること。
- ・貼り換え(修正・変更)が容易であること。
- ・施工できる業者が多いこと。
- ・製品が普及していること。
- ・概ね5年程度の耐久性があること。

■標準とする印刷技法

印刷技法	概要	利点・欠点	耐久年数	概算額 (参考値)	製品例
インクジェット印刷＋ 耐候性フィルム貼り	屋外用粘着フィルムに直接印刷し、その全面に退色防止用のフィルムを貼ったもの	表現性が高く、経済性も良い。近年の技術により耐久性も高い。	概ね 5年	3.5万円 (400×400)	スコッチカルプリントグラフィックス スーパーカラー SPコート
カッティングシート (ラミネート加工フィルム)	屋外用粘着フィルムを図形や文字の形にカットして貼りつけたもの。	文字等に適しており、経済性が良い。細かい図形等は剥れる場合がある。		2.5万円 (400×400)	スコッチカルシート ダイナカル DC タックペイント

【備考】

カッティングシートは屋外用フィルムを用いる。表面のフィルムのバリエーションも多く、タバコのみみ消しや落書き、ひっかき傷といったものにも強い製品もある。

※概算額については、印刷費及び貼り付け費用を含む

2.3 標準仕様

■ピクトグラム及びメッセージ版

サイズ	A130～A240 B130～B240
印刷	インクジェット印刷＋耐候性フィルム貼り カッティングシート(ラミネート加工フィルム)
色指定	それぞれのピクトグラムの基本色 メッセージ版の地・文字色 (DIC カラーで指定する。)
耐用年数	概ね 5 年
基板	アルミ板 t=2.0 程度
概算金額 (参考)	2.5 万円(300×300 アルミ板貼り付け) 3.5 万円(400×400 アルミ板貼り付け)

※概算金額には、印刷費・設置費等を含む。

■本体(Mタイプ):標準設計図集 P15～P22

サイズ	M1～M2 (ピクトグラムのサイズに応じて指定)	
本体仕様	支柱 STKR(サイズ指定) 溶融亜鉛メッキ(HDZ40)	支柱 SUS(サイズ指定)
塗装色	濃茶系またはグレー系(色指定) フッ素樹脂塗装	必要に応じ フッ素樹脂塗装仕上げ
耐用年数	概ね 10～15 年	
基礎	コンクリート基礎 ※設置場所に応じて変更可	
概算金額 (参考)	15 万円(M1-A130 スチール)～40 万円(M2-A240 スチール)程度 20 万円(M1-A130 SUS)～50 万円(M2-A240 SUS)程度	

※ SUS は海岸線より2～5km 以内又は感潮区間で使用を検討する。

※概算金額には、印刷費・設置費等を含む。



地区区分	飛来塩分量を考慮する地域	
日本海沿岸部	I	海岸線から20km以内
	II	海岸線から5km以内
太平洋沿岸部	海岸線から2km以内	

一級河川における耐食性の設定 (参考)

河川名	耐食性を高める範囲
遠賀川、松浦川	海岸線から 5km 以内
その他の河川	海岸線から 2km 以内

■本体(Wタイプ):標準設計図集 P23～P26

サイズ	W1～W2 (ピクトグラムのサイズに応じて指定)		
本体仕様	無垢材 (国産 杉・桧材)	無垢材＋防腐塗装	低分子フェノール 樹脂処理木材
塗装色	無塗装	水性防腐塗装(無色)	無塗装
耐用年数	3年程度	3年～5年	10年～15年
基礎	コンクリート基礎 ※設置場所に応じて変更可		
概算金額 (参考)	無垢材の場合 10万円(W1-A130)～30万円(W2-A240)程度		

※標準図集の木材すべては可能な限り流域で産出したもの(地場材)を調達する。耐用年数は、設置場所に応じて変動する。

※木材は経年変化により自然な色に変色するため、無塗装とする。

※無垢材を使用する場合は反り、変形等を防止するため、背割り等の処理を施す。

※概算金額には、印刷費・設置費等を含む。

※防腐処理については、防腐効果の観点から木材を加工後に処理することが望ましい。

■本体(Pタイプ):標準設計図集 P27～P30

サイズ	P1～P2 (ピクトグラムのサイズに応じて指定)		
本体仕様	アルミ板、SUSビス取付 樹脂塗装		
塗装	フッ素樹脂塗装仕上げ		
基板	アルミ板		
耐用年数	概ね 15年		
概算金額 (参考)	5万円程度(P1-B130 フェンス設置タイプ) 8万円程度(P1-B130 壁面設置タイプ)		

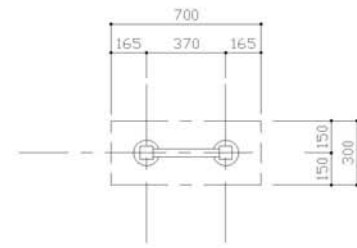
※概算金額には、印刷費・設置費等を含む。

2.4 標準設計図集

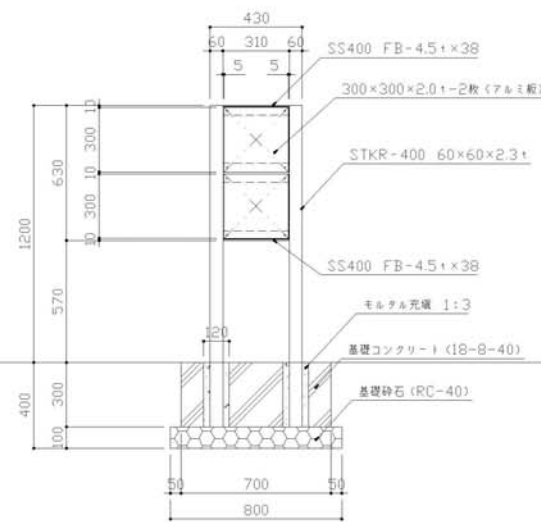
標準設計に準じて設置する場合は、標準設計図集より適応するタイプを選択するものとする。また、設置状況に応じて、両面表示とする場合はその旨を指示をすることが必要となる。

なお、基礎については、できるだけ簡素なものとして示しているが、現地状況に応じて、適宜修正するものとする。

M1-A130-スチール



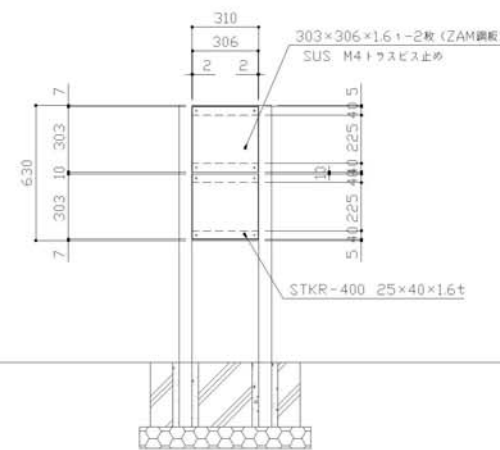
平面図 S=1:20



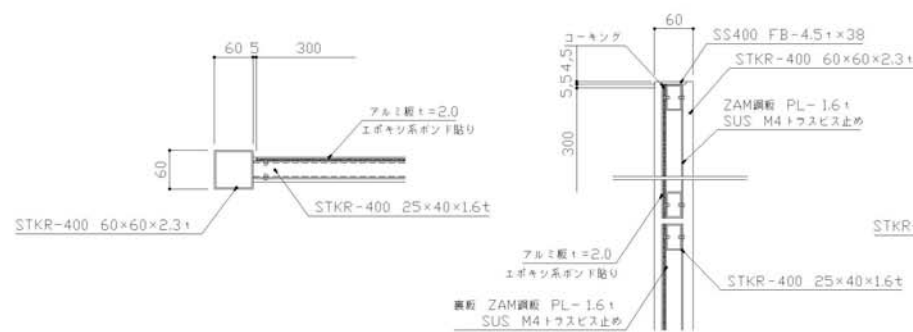
正面図 S=1:30



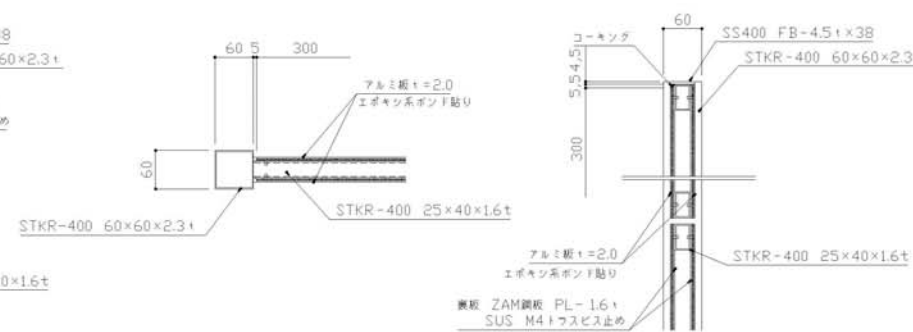
側面図 S=1:30



背面図 S=1:30



片面タイプ詳細図 S=1:10

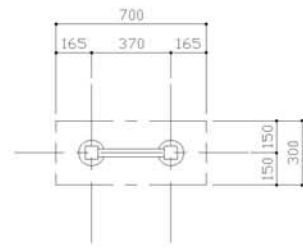


両面タイプ詳細図 S=1:10

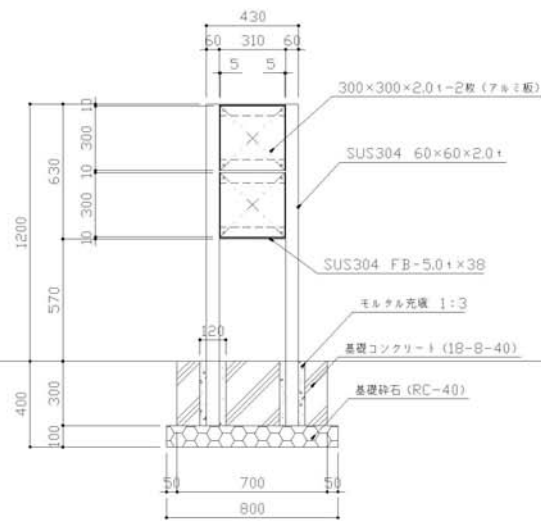
特記事項
 *表示面内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は見え入り部分も7ヶ月前測定後仕上げとする。)

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

MI-A130-SUS



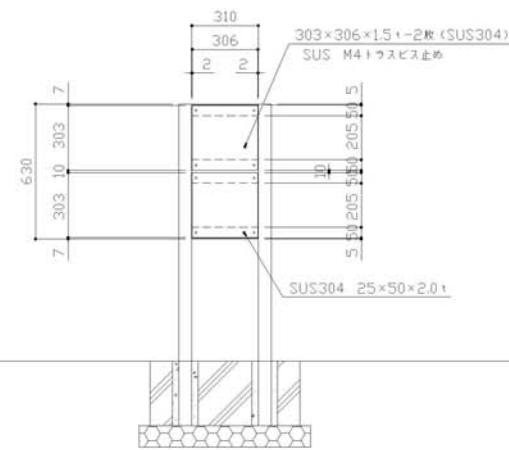
平面図 S=1:30



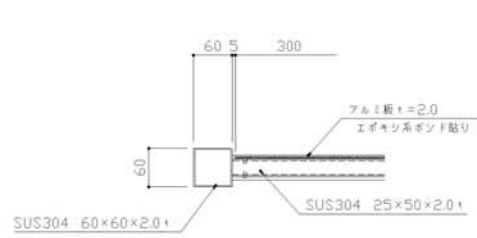
正面図 S=1:30



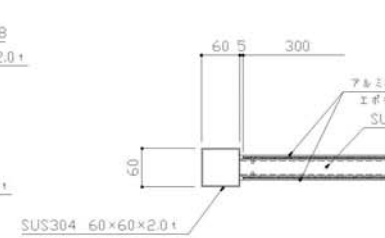
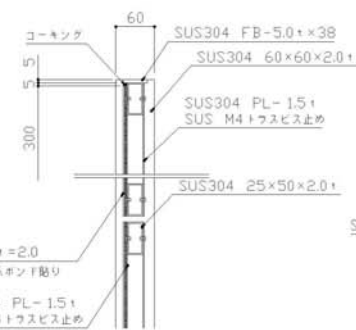
側面図 S=1:30



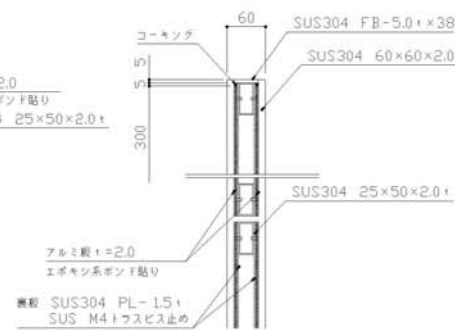
背面図 S=1:30



片面タイプ詳細図 S=1:10



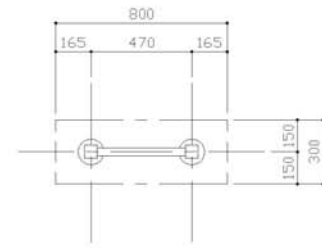
両面タイプ詳細図 S=1:10



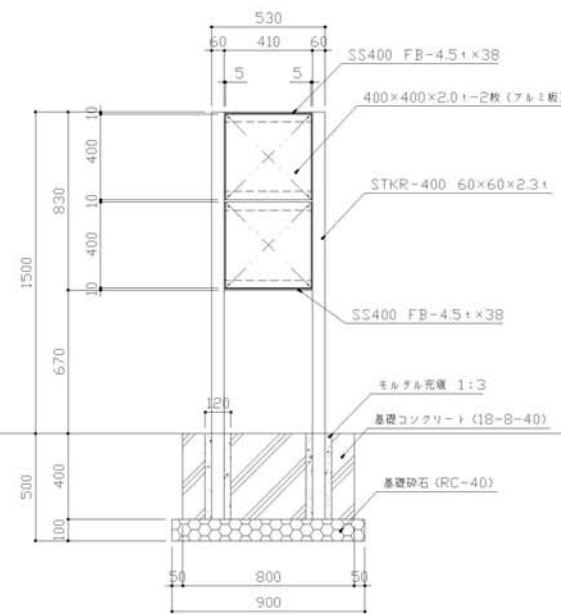
特記事項
 *表示面内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は見え回り部分も7ヶ所樹脂塗装仕上げとする。)

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

M1-A140-スチール



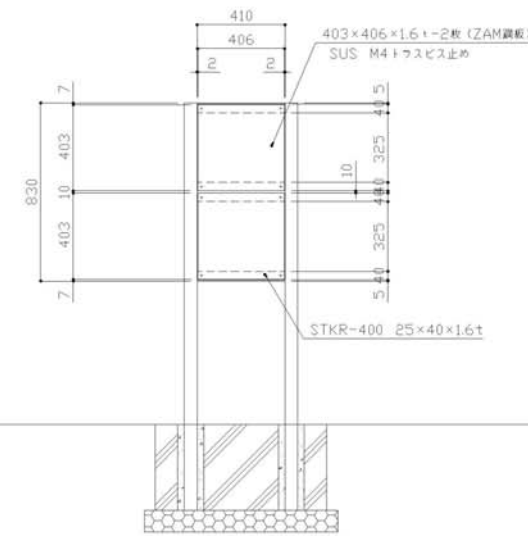
平面図 S=1:15



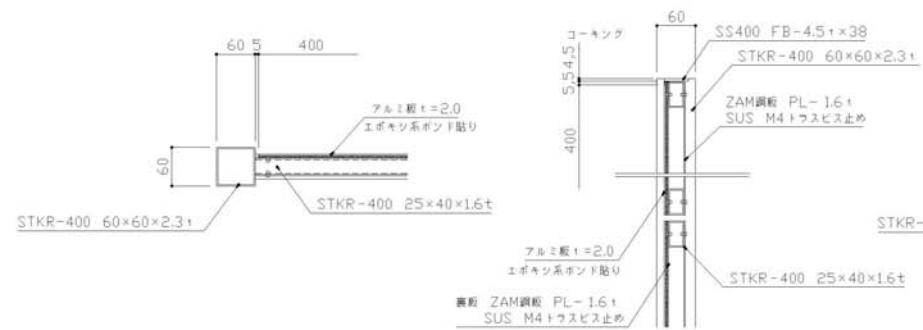
正面図 S=1:30



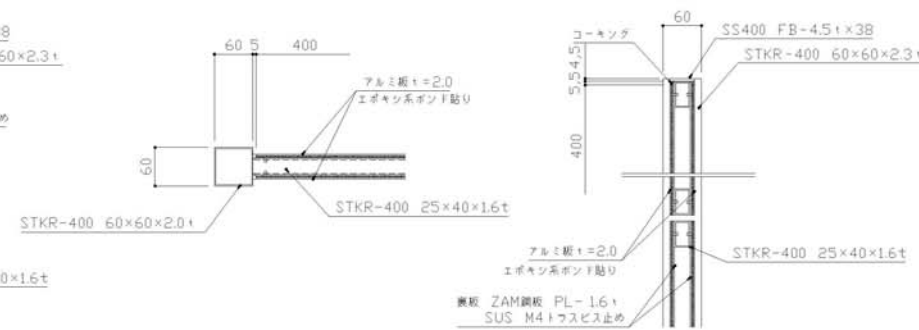
側面図 S=1:30



背面図 S=1:30



片面タイプ詳細図 S=1:10

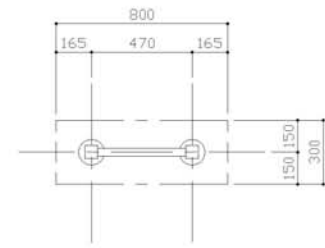


両面タイプ詳細図 S=1:10

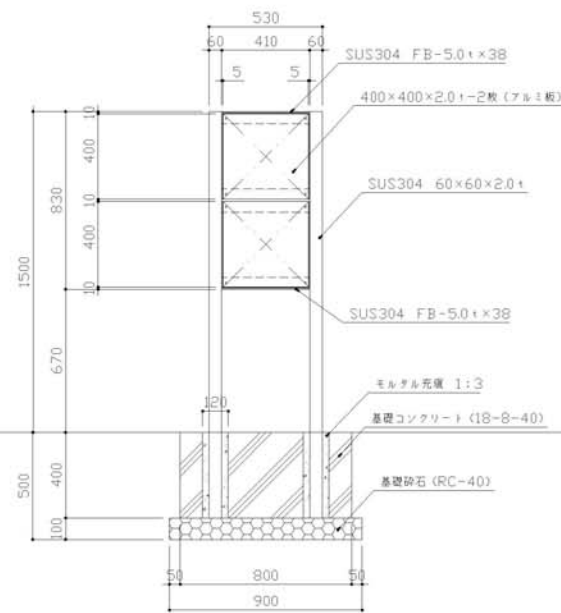
特記事項
 *表示面内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は記入用り部分をフッ素樹脂塗装仕上げとする。)

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

M1-A140-SUS



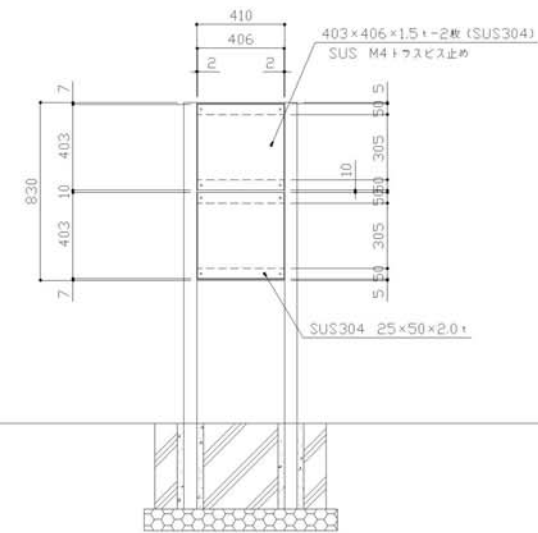
平面図 S=1:15



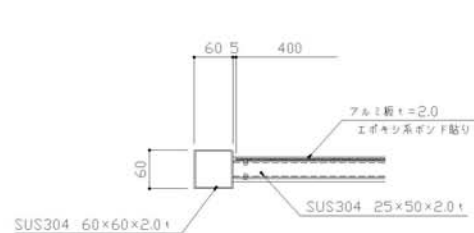
正面図 S=1:30



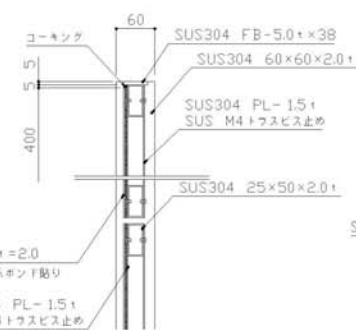
側面図 S=1:30



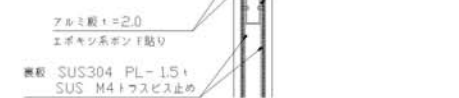
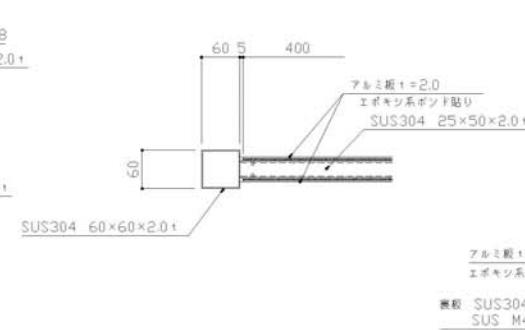
背面図 S=1:30



片面タイプ詳細図 S=1:10



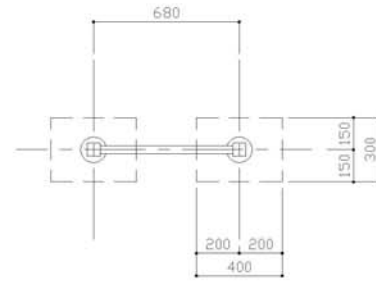
両面タイプ詳細図 S=1:10



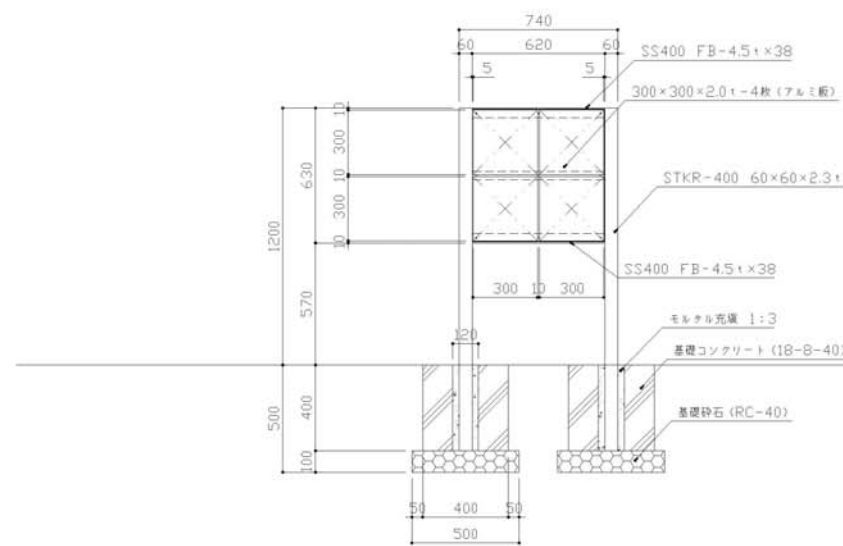
特記事項
 *表示内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は見入り部分を7ヶ所未満指定仕上げとする。)

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

M2-A230-スチール



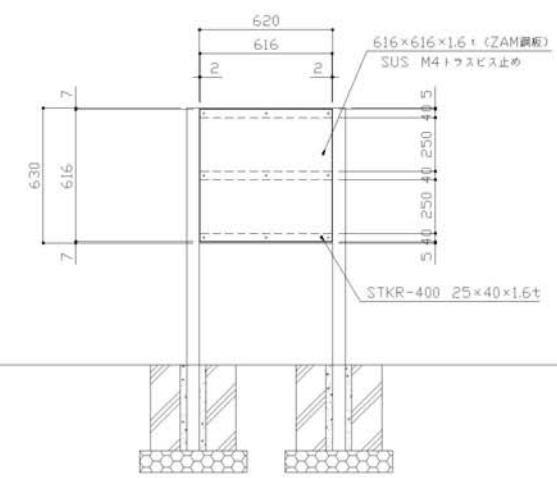
平面図 S=1:20



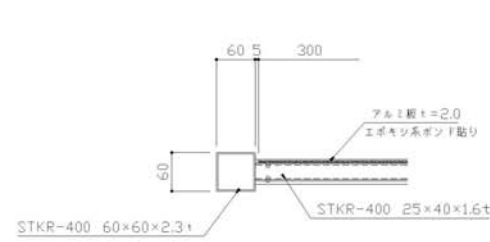
正面図 S=1:30



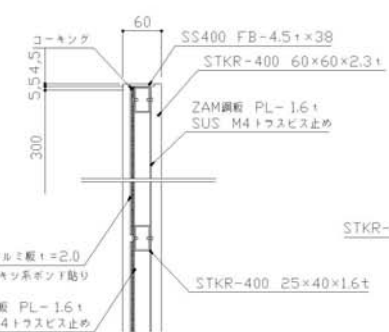
側面図 S=1:30



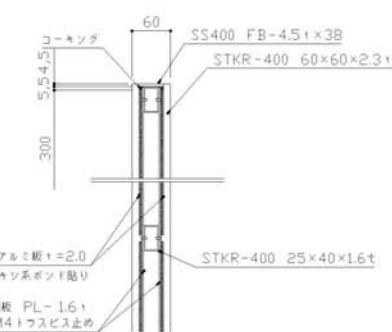
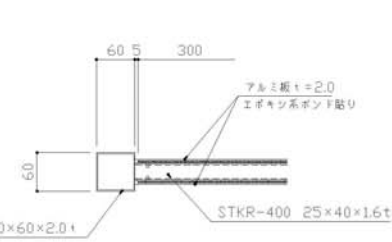
背面図 S=1:30



片面タイプ詳細図 S=1:10



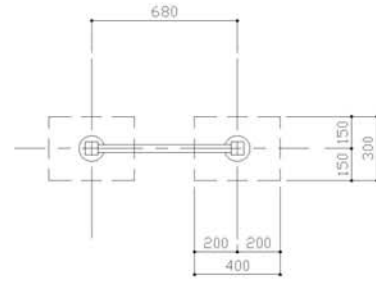
両面タイプ詳細図 S=1:10



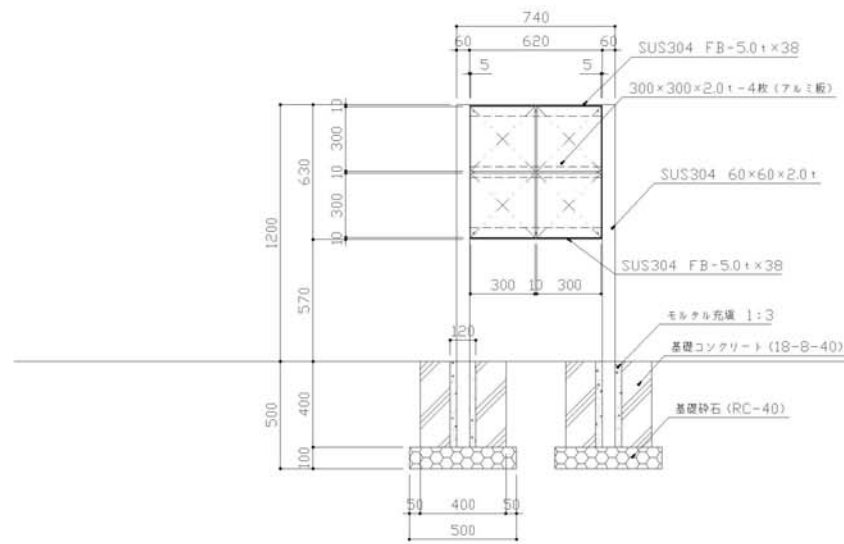
特記事項
 *表示内容・仕様は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は記入用部分もすべて素組指定仕上げとする。)

工事名	
図面名	
作成年月日	
縮尺	図形 図面番号 1/1
会社名	
事業者名	九州地方整備局

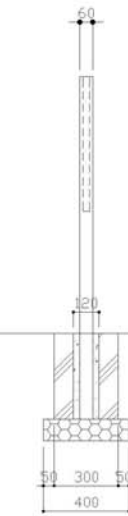
M2-A230-SUS



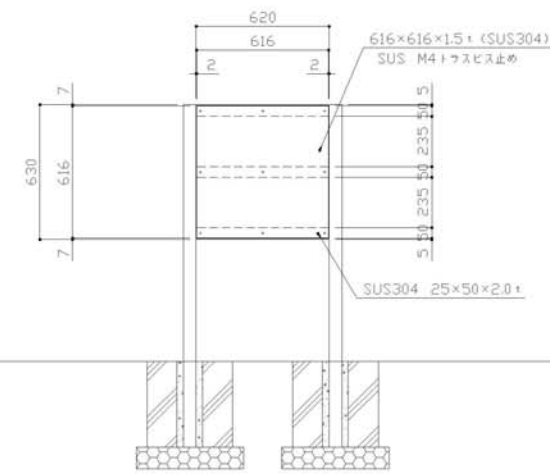
平面図 S=1:30



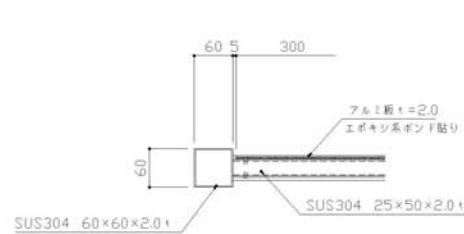
正面図 S=1:30



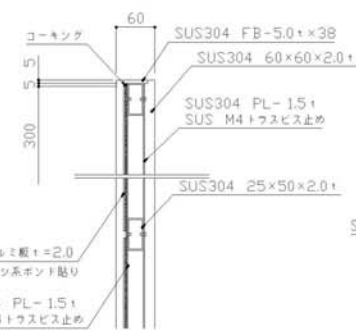
側面図 S=1:30



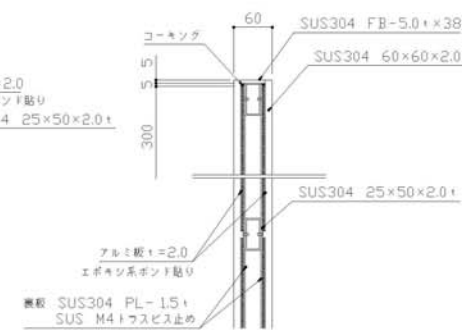
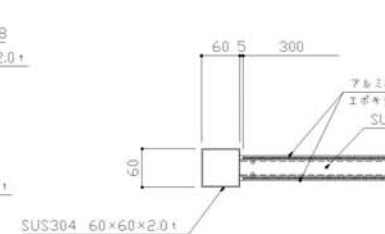
背面図 S=1:30



片面タイプ詳細図 S=1:10



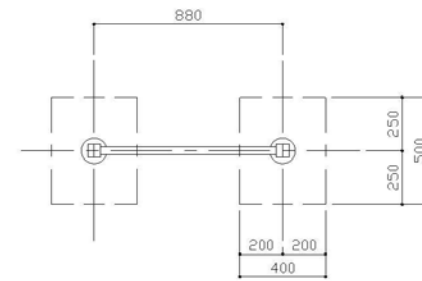
両面タイプ詳細図 S=1:10



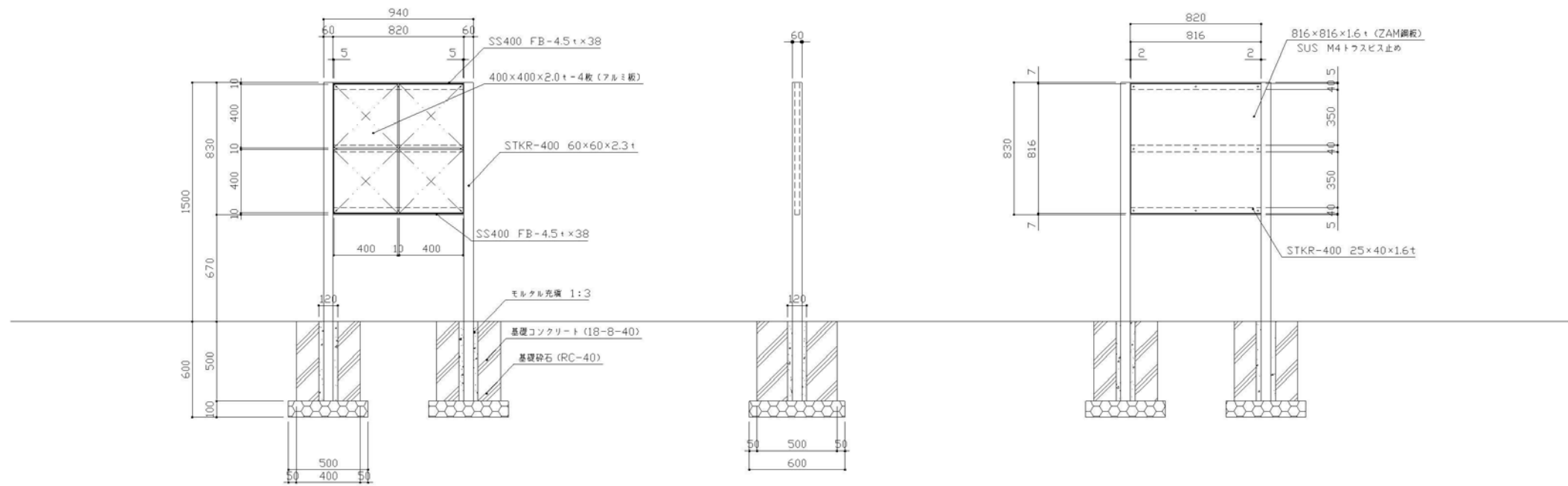
特記事項
 *表示面内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は見え隠れ部分をフッ素樹脂塗料仕上げとする。)

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

M2-A240-スチール



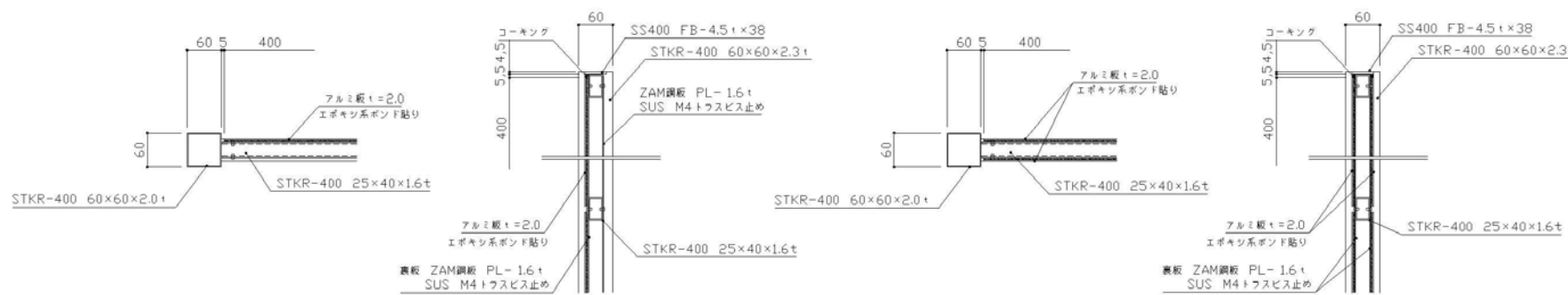
平面図 S=1:15



正面図 S=1:30

側面図 S=1:30

背面図 S=1:30



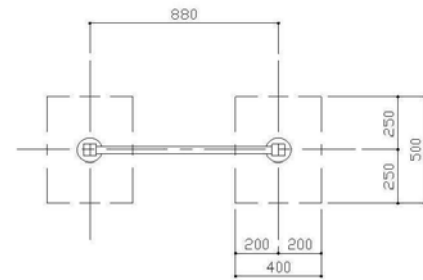
片面タイプ詳細図 S=1:10

両面タイプ詳細図 S=1:10

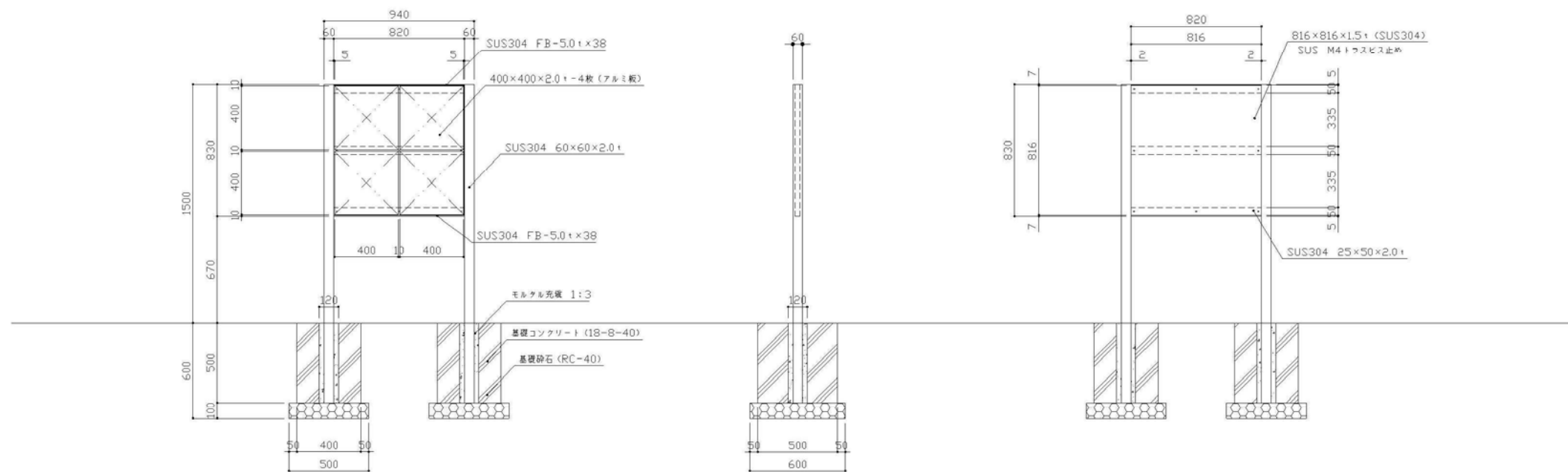
特記事項
 *表示面内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は見え隠り部分をフッ素樹脂塗装仕上げとする。)

工事名	
図面名	
作成年月日	
縮尺	図示 図面番号 1/1
会社名	
事業者名	九州地方整備局

M2-A240-SUS



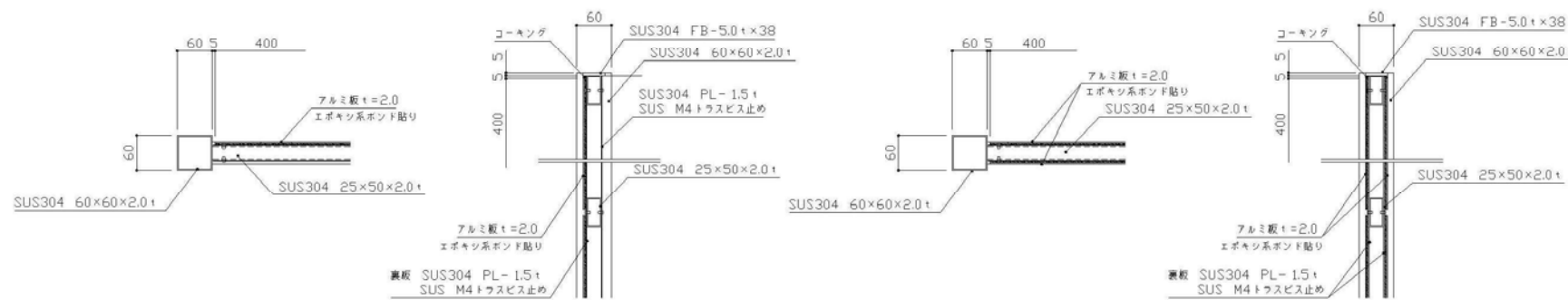
平面図 S=1:15



正面図 S=1:30

側面図 S=1:30

背面図 S=1:30



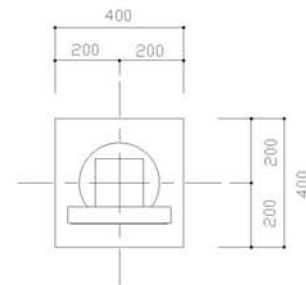
片面タイプ詳細図 S=1:10

両面タイプ詳細図 S=1:10

特記事項
 *表示面内容・塗装色は監督職員と協議すること。
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 (*鋼材は見え隠り部分をフェッ素樹脂塗装仕上げとする。)

工事名	
図面名	
作成年月日	
縮尺	図外 図面番号 1/1
会社名	
事業者名	九州地方整備局

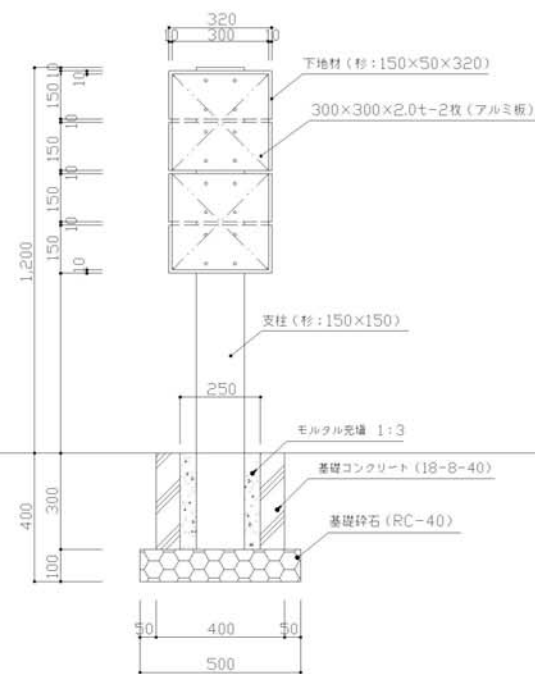
W1-A130



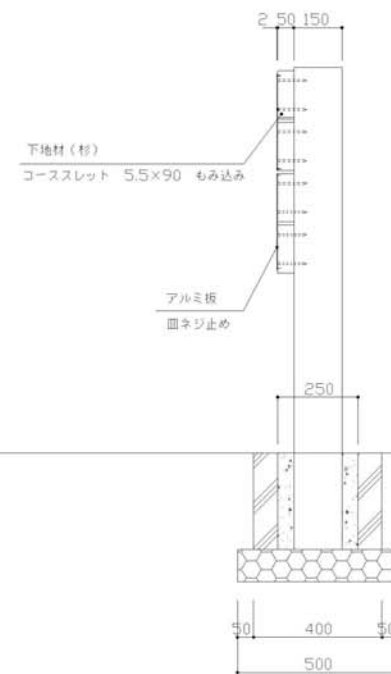
平面図 S=1:20

特記事項

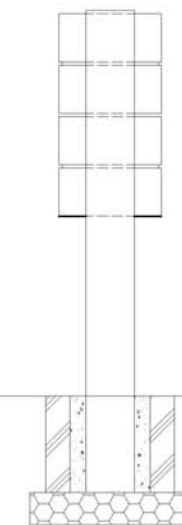
- *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
- *コーススレッドのみみ込みは、事前にキリで穴を開けてから行う。
- *防錆処理については、防錆効果の観点から木材を加工後に処理することが望ましい。



正面図 S=1:20



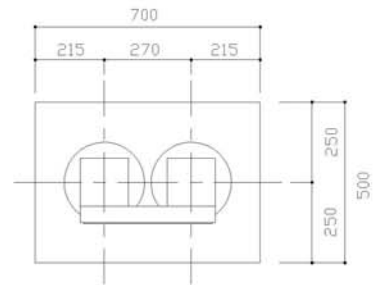
側面図 S=1:20



背面図 S=1:20

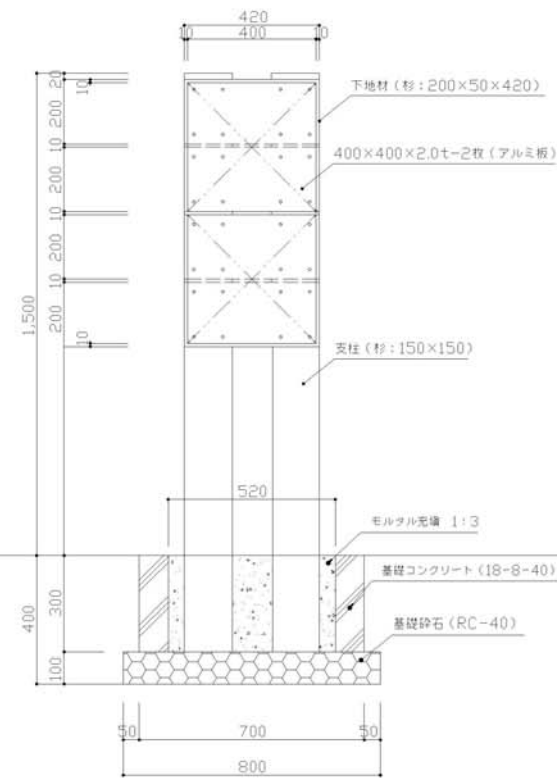
工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

W1-A140

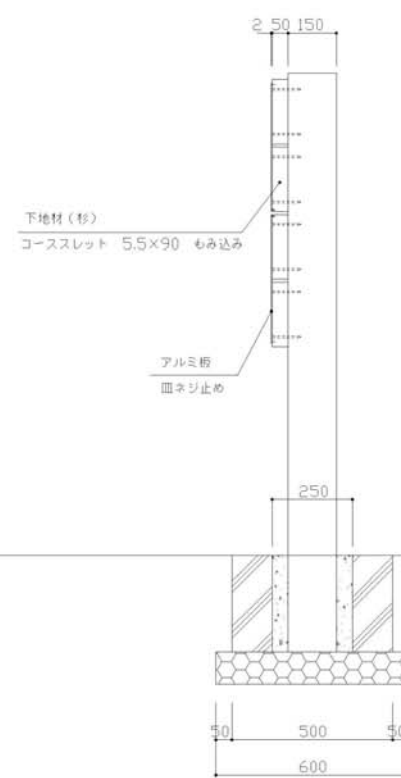


平面図 S=1:20

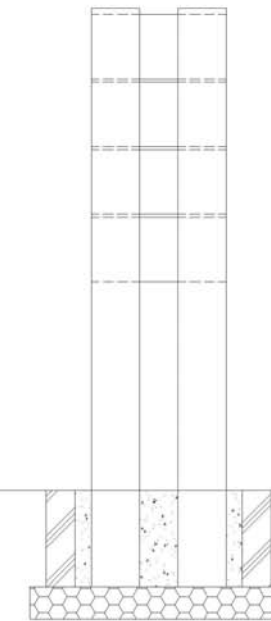
特記事項
 *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
 *コーススレッドのみみ込みは、事前にキリで穴を開けてから行う。
 *防錆処理については、防錆効果の観点から木材を加工後に処理することが望ましい。



正面図 S=1:20



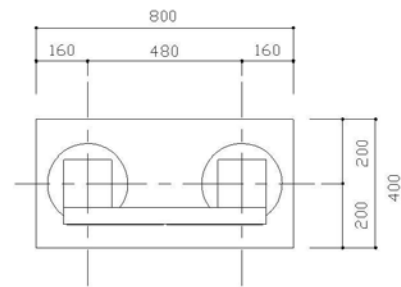
側面図 S=1:20



背面図 S=1:20

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

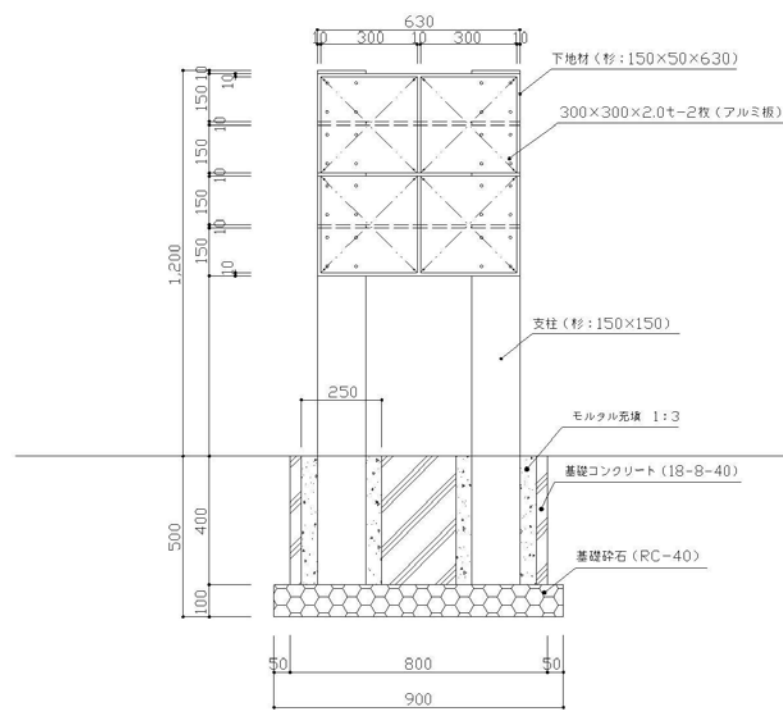
W2-A230



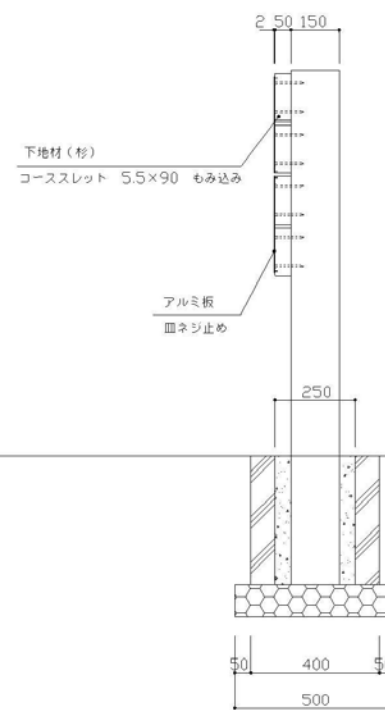
平面図 S=1:20

特記事項

- *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
- *コーススレッドのみ込みは、事前にキリで穴を開けてから行う。
- *防錆処理については、防錆効果の観点から木材を加工後に処理することが望ましい。



正面図 S=1:20



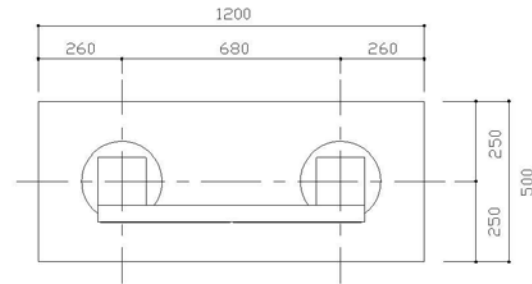
側面図 S=1:20



背面図 S=1:20

工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

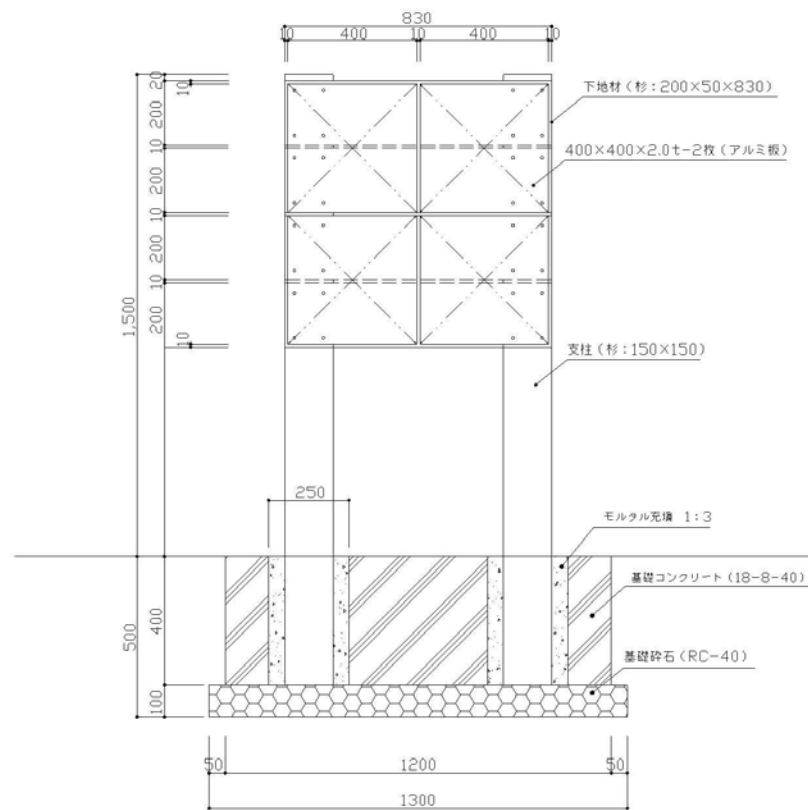
W2-A240



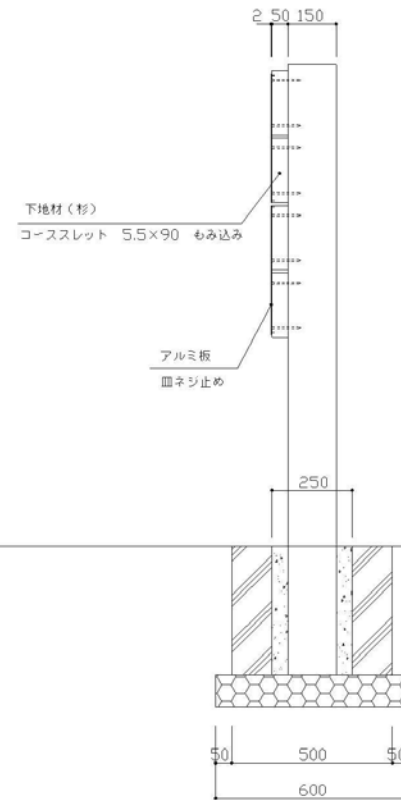
平面図 S=1:20

特記事項

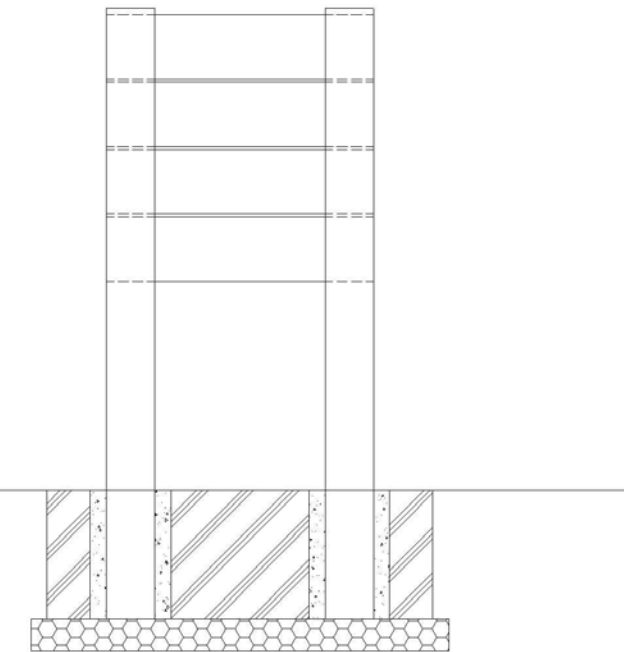
- *基礎コンクリートについては、必要に応じて監督職員と協議すること。
- *コーススレッドのみ込みは、事前にキリで穴を開けてから行う。
- *防腐処理については、防腐効果の観点から木材を加工後に処理することが望ましい。



正面図 S=1:20



側面図 S=1:20

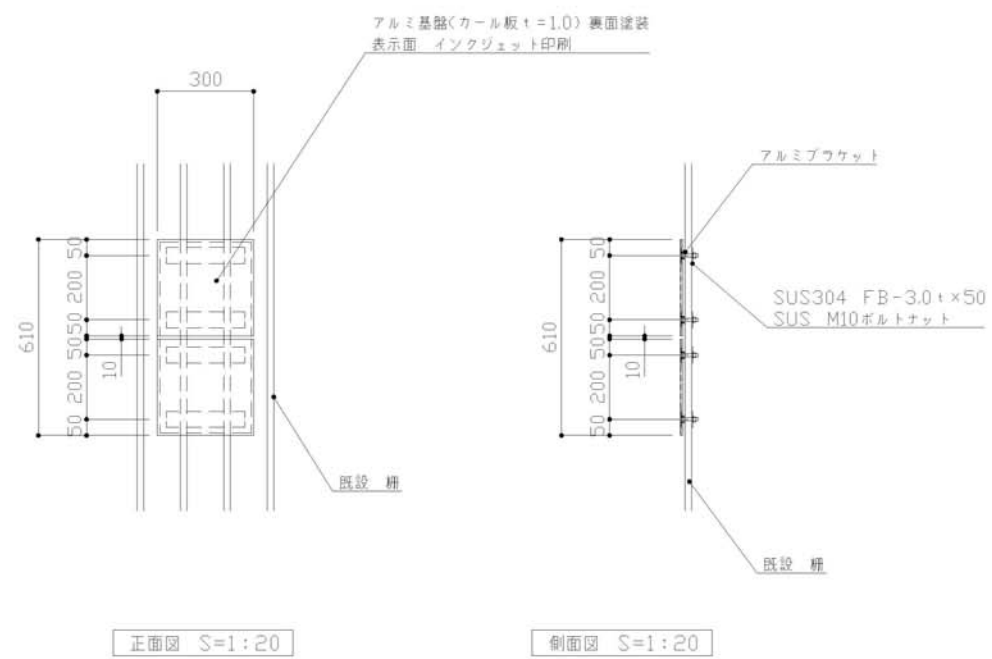


背面図 S=1:20

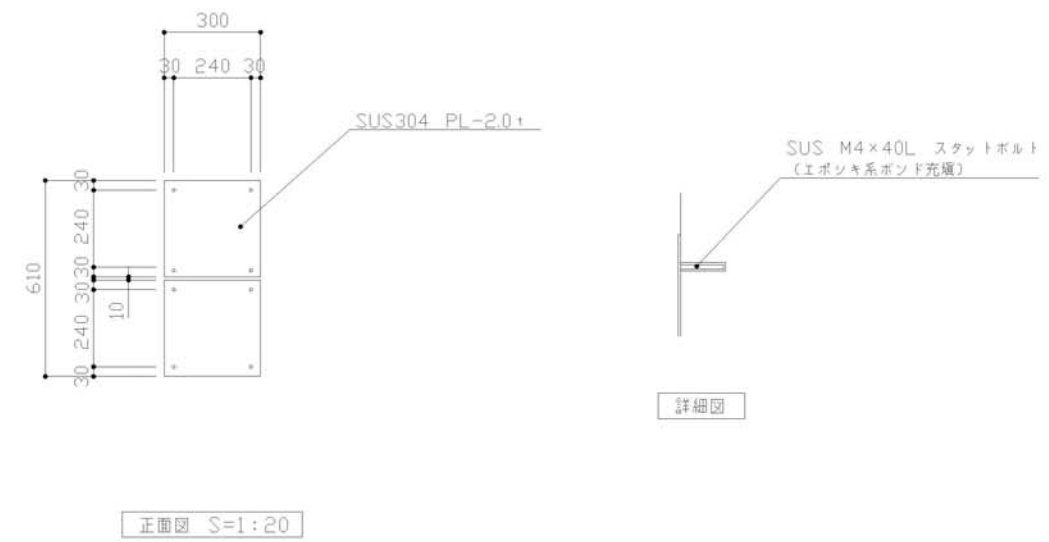
工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

P1-B130

フェンス取付タイプ



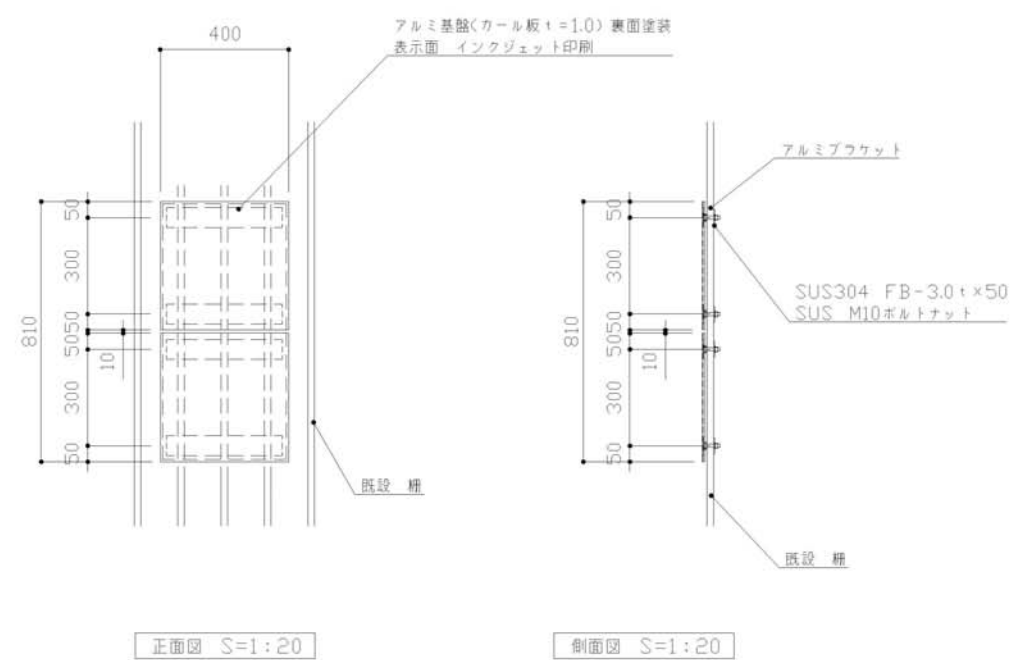
壁面取付タイプ



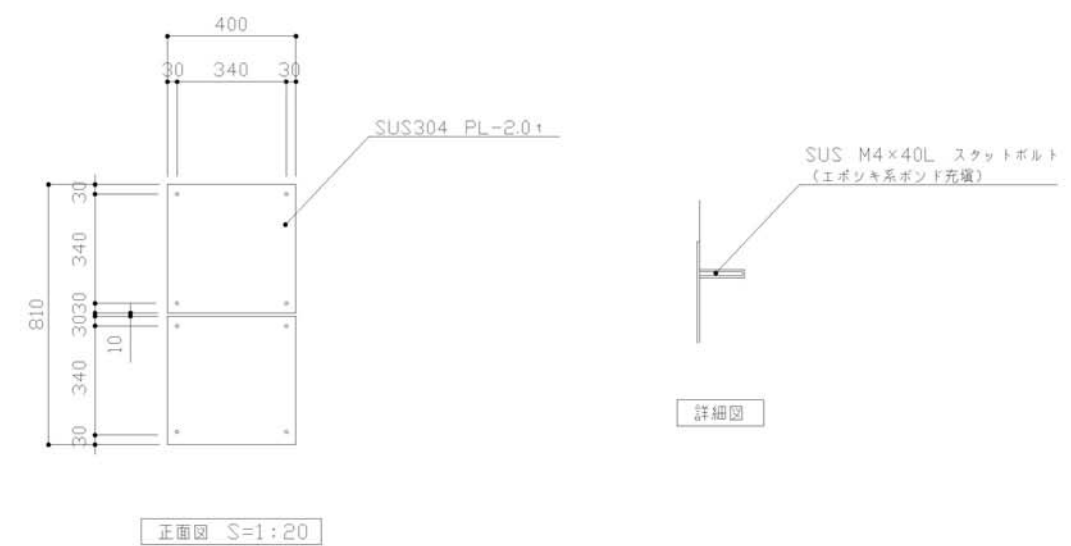
工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

P1-B140

フェンス取付タイプ



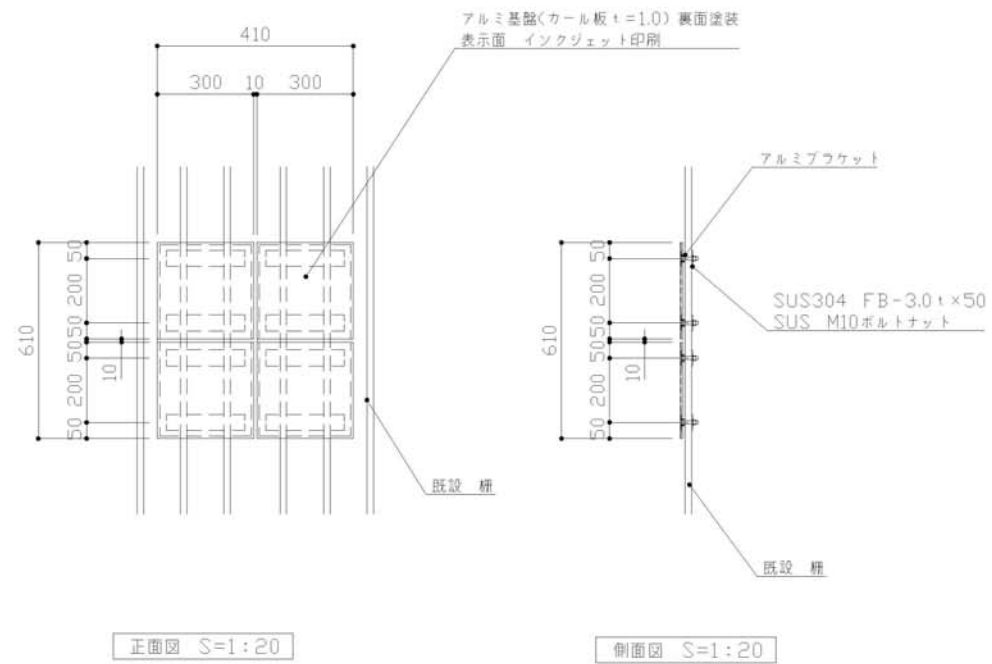
壁面取付タイプ



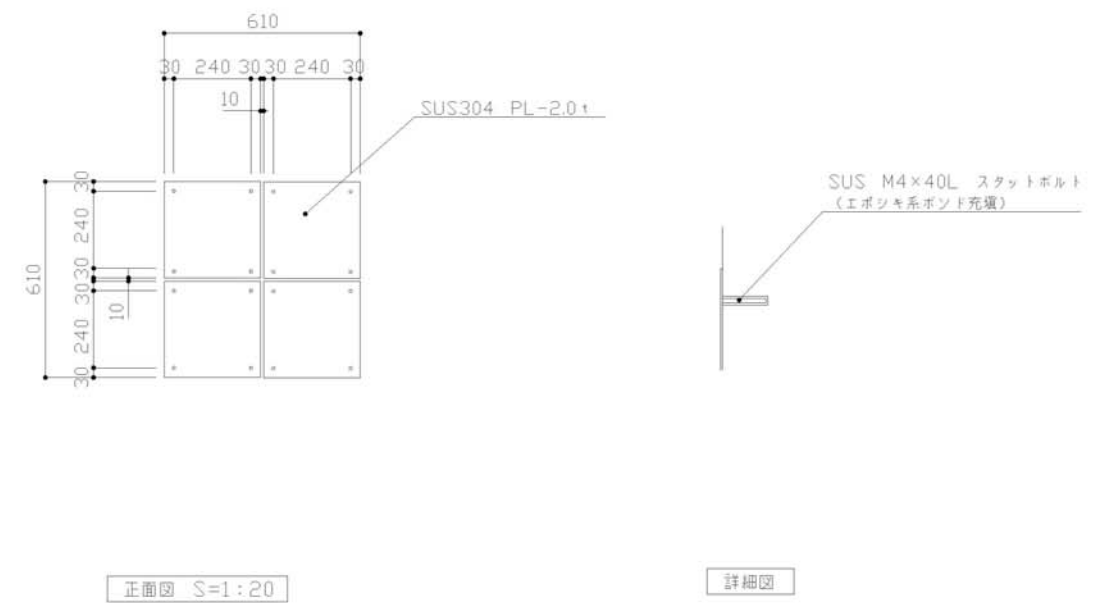
工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
事業者名	九州地方整備局		

P2-B230

フェンス取付タイプ



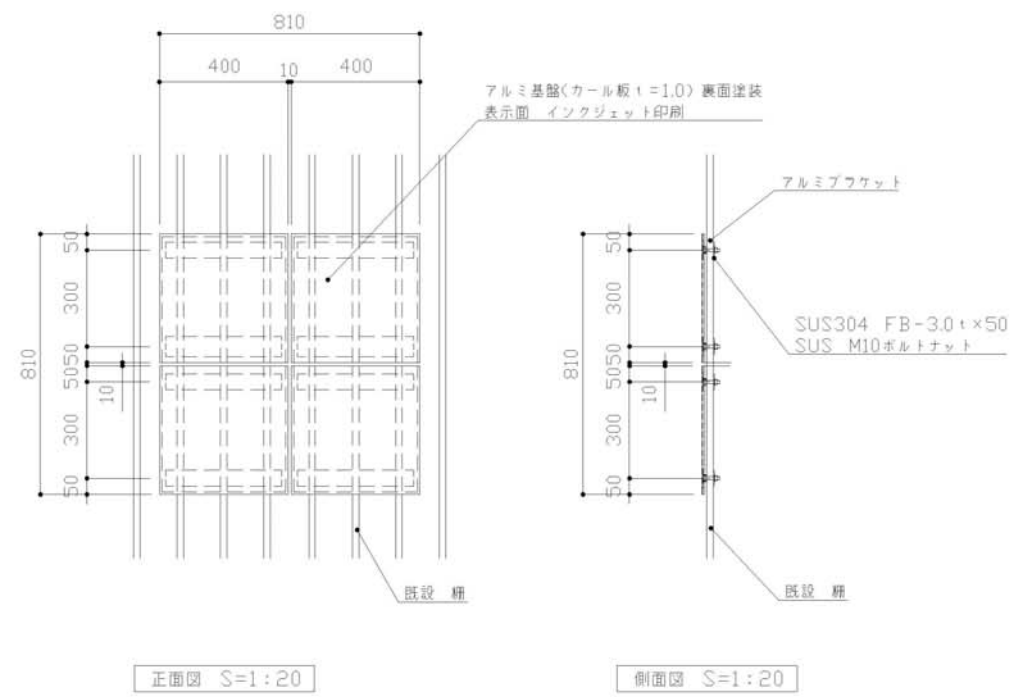
壁面取付タイプ



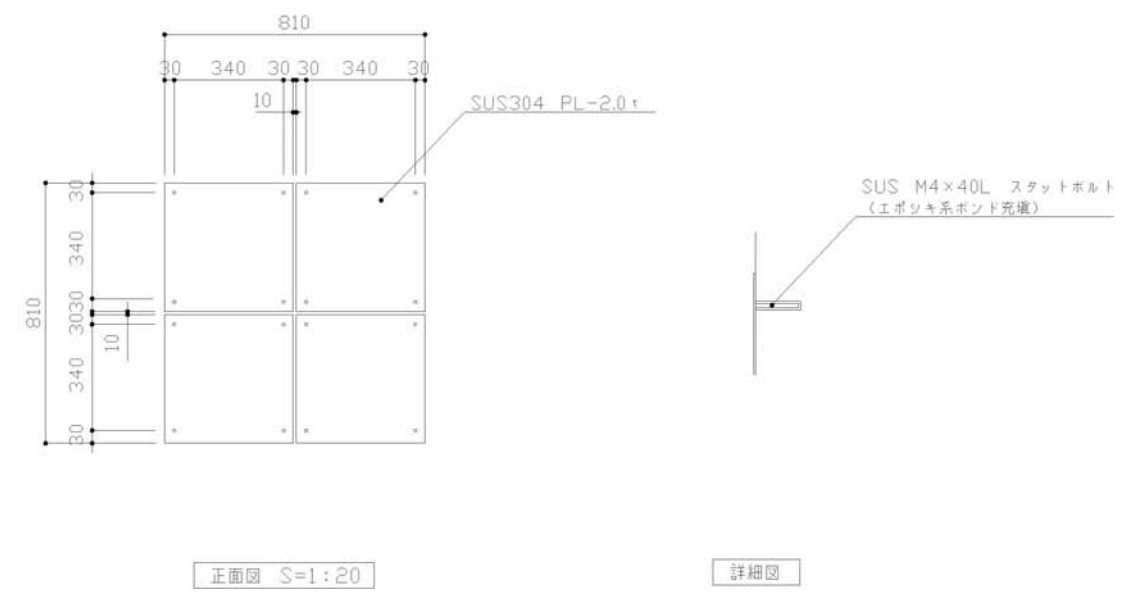
工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
承認者名	九州地方整備局		

P2-B240

フェンス取付タイプ



壁面取付タイプ



工事名			
図面名			
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1/1
会社名			
承認者名	九州地方整備局		

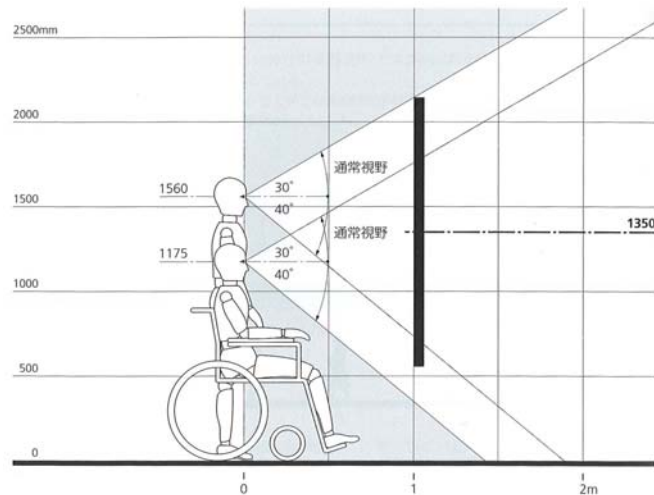
付 属 資 料

- 【付属－1】 標識の設置高さ
- 【付属－2】 レイアウトの基本的考え方
- 【付属－3】 標識の素材と設置期間
- 【付属－4】 ダム放流の注意喚起標識(例)
- 【付属－5】 既存の標識を使用する場合の注意点
- 【付属－6】 管理台帳

【付属－1】 標識の設置高さ

規制標識の設置高さについては、歩行者からの見やすさを確保しつつ、河川への眺望の確保や景観の阻害にならないために、できるだけ低く設定することが望ましいと考えられる。

また、河川におけるバリアフリー化が進められていることから、車椅子でも見やすい高さとする。



移動円滑化ガイドライン(2006)国土交通省
建築資料集成3集(1980)日本建築学会

図 規制標識の設置高さの目安

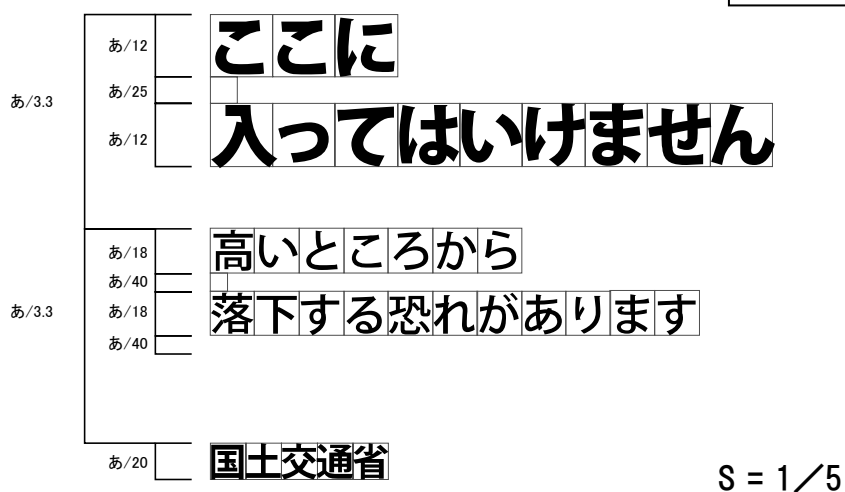
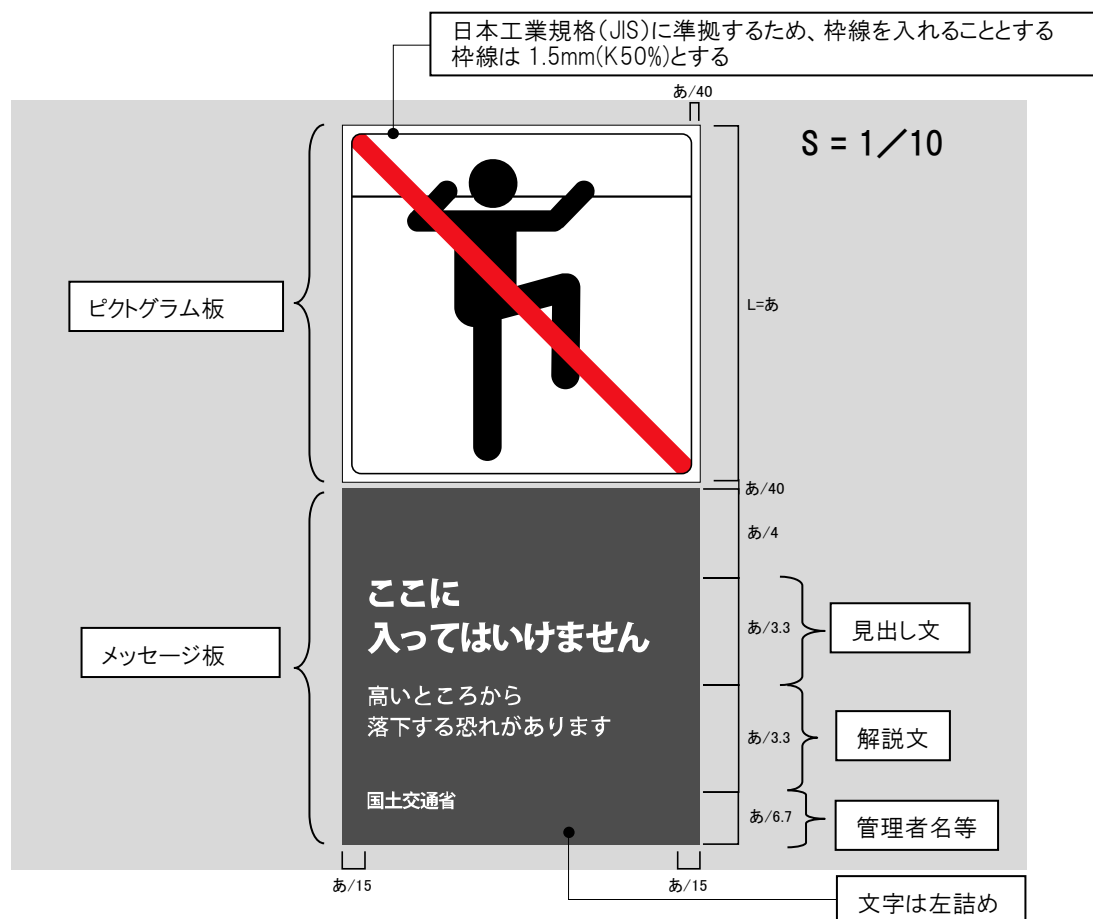
よって、設置高さを以下のように設定する。

設置高さ：版面の中心が概ね 1300～1400mm の高さになるようにする。
※小型の標識については、1200mm 程度の総高さがバランスが良いと考えられる。

【付属-2】レイアウトの基本的考え方

ピクトグラム及びメッセージ板のレイアウト基準については、下図の考え方を基本とする。下図では1辺の長さをL = “あ”とした場合のレイアウトの間隔を示している。

なお、標準設計にある 300×300, 400×400 サイズについては、標準設計のレイアウト基準に準拠するものとする。



※300,400 サイズのピクトグラム及びメッセージ板については、
本編「3.4 レイアウト基準」(P49～50)を参考すること。

【付属－3】 標識の素材と設置期間

(1) 板面の素材と特徴

標識の板面の素材の耐久性や経済性等については、下表を参考とする。なお、必要に応じて、夜間における視認性のための反射素材の採用や落書き等に対応できる素材についても検討する。

本体の素材		利点・欠点		耐久性	加工性	経済性	備考
金属系	鉄	利点	最も普及している素材であり、材料のバリエーションが豊富である。	△	◎	◎	
		欠点	防錆処理が必要となる。 塗装の塗り替え等定期的なメンテナンスが必要となる。				
	ステンレス	利点	耐食性が高く、ステンレス独自の素材感を生かした表面加工が可能である。	◎	◎	○	
		欠点	他の金属系素材に比べ、やや高価である。				
	アルミニウム	利点	耐食性が高く、重量が軽い。	○	◎	○	
		欠点	他の金属系素材に比べ、強度に劣る。				
	アルミ鋳物	利点	手づくり感があり親しみやすい。 複雑で特殊な形状を製作できる。	◎	◎	△	
		欠点	大型のものは製作精度が劣る。				
木系	木材	利点	自然の風合いをもつため、自然の多い環境に適する。	×	○	◎	
		欠点	耐久性(反り、割れ、退色等)に劣る。				
	合成木材	利点	木に比べ経年変化が小さい。 自然の風合いの要素を持つ。	○	○	○	
		欠点	材料の形状に限られる。 人工色を完全に払拭できない。				
石材	利点	天然素材で安定感・高級感があり、耐摩耗性に優れている。	◎	○	△		
	欠点	強度にややバラツキがある。 施工性があまりよくない。					
コンクリート	利点	型枠により製作されるため、いろいろな形状とすることができる。	◎	○	△		
	欠点	細かい細工がしにくい。 施工性があまり良くない。					

評価の凡例 ◎：非常によい ○：良い △：標準 ×：悪い

(2) 表示面の印刷技法と特徴

版面印刷の手法（案）

印刷技法	手法および利点・欠点		耐久性	表現性	経済性	備考
ステンレスホーロー 焼成板	手法	ステンレスホーロー板に無機顔料を印刷した転写紙を高温で焼成する。	◎ 半永久	○	×	長期間使用が可能なことから、情報内容の変わらないサインに適している。
	利点	表面はガラス質で覆われている耐摩耗性、耐薬品性、耐退色性に優れている。				
	欠点	色の再現性に若干の難がある。コストが高価となる。				
エッチング加工	手法	表示面の図柄のネガ部分を乳剤で保護し、薬品で浸食して彫り込む。	◎ 半永久	○	△	長期間使用が可能なことから、情報内容の変わらないサインに適している。
	利点	手加工的な味わいがあり、長期間の使用が可能である。				
	欠点	他の金属系素材に比べやや高価である。				
硬化樹脂	手法	電子線を照射すること等により、表面層の樹脂を硬化反応させる。	○ 10～13年	◎	○	
	利点	表現性がよく、ある程度の期間使用が可能である。				
	欠点	製作サイズに制約がある。				
インクジェット印刷	手法	塩ビシートなどの素材に直接インクを噴射する。	△ 5～8年	◎	◎	近年では急速な技術進歩により耐久性の高い方法も出てきている。
	利点	最も普及している方法であり、コストが安く情報を更新する場合には有利である。				
	欠点	出力機械により、色にバラツキがでることがある。				
フィルム貼り	手法	塩ビ系フィルムを図柄どおりにカットし、表示面に貼り付ける。	△ 5年程度	○	◎	
	利点	コストが安く、色も豊富である。				
	欠点	細かい図柄表現には不向きである。				

※1 評価の凡例 ◎：非常によい ○：良い △：標準

※2 耐用年数は参考値であり、設置場所の環境等により変わる。

【付属－4】ダム放流の注意喚起標識(例)

ダム放流の注意喚起標識については、基本的な仕様については、標準設計に準拠するものとするが、ダム等の放流施設周辺では、特に注意喚起を要することから、既設の標識を再利用する場合など必要に応じて、下記のように大型の標識を設置することも考えられる。



図 2-14 大型注意喚起標識のデザイン例(W2500×H1500)

【付属－5】既存の標識を使用する場合の注意点

- ・ 既存標識の位置で適切に情報を伝えることが出来るか十分に検証すること。
- ・ 規制（禁止・注意喚起）・啓発標識を設置する場合はガイドラインを踏襲すること。
- ・ 柱の色については、塗装しなおすなどにより、ガイドラインの基本色とすること。（P22 参照）
- ・ 盤面の高さについては、標準設計に準拠すること。
- ・ 特に一本柱の場合は盤面のカドをとるなど利用者のケガ等に配慮すること。

